(十六日夕刊)

休刊　大祭　第一、第三日曜
定價(一五二一錢、壹ヶ月壹圓二錢、郵税十錢)
廣告料(二行五錢、背定廿錢)
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

本郡から入營した青訓兵は好成績

二年の現役を一年半に　或は短縮が實現

石城郡下各郷村では在郷軍人分會と共力して青年訓練を執行し成績見るべきものあり今年も本郡より訓練年にして入營したもの相當數に上つてゐるが青年訓練所出身の入營兵に對しては規定により發練の檢定を施行し目下嚴重調査中であるが本年度の青訓兵は

訓練所の第三年生

成練は三百時間を修了してゐる關係から所定の時間を終つた者は非常な好成績を示し學術科共に入營約一ケ月を經過した程度の動作を見せてゐる殊に訓練を受けない一般の兵に比較しては時は格段な差異を認めるなり青訓兵の態度といひ言語といへ既に軍人型が出來てゐるのでそ教育指導は實に容易であり短期教育の目的を充分に果し得る自信を有してゐるこの好成績が自然一般兵に對する發奮の動機となりすべての點において有効である。認められてゐるから明年度以後青訓第四年の全課程を修了した者丁を迎へることになれば一共同販賣を十五日午前十時から行つたが第一回販賣は四等米一俵十圓八十錢といふ豫想外の高値で醸造家に取引されたゝめ第二回産米出廻り薄から相當高値で取引されるものと豫想されてゐたところ取引は一俵二三十錢安であつたゝめ某穀檢所員は炭礦方面を中心とした米の大量取引が從來地方産米によつてその大半が行はれて來たところ最近政府の拂下米と稱する五等米位の白米がどし〳〵移入されて來たゝめ地方産米の値段が下向きとなつたので今後も相當の移入を見るときはます〳〵米價下落となるから各郷村農會ではこれに對する策を考へることが急務である」云々

樹木の施肥は今が一番

郡技師の談

石城郡赤井村地方は樹木の栽培旺盛であるが寒肥の盛りとなつき郡技師は「今は寒肥といひまして、樹木としては一番大切な時季です、此の際充分施肥をして頂きたいもので其の分量と使用法を一寸お話しいたします、今當盛木を除き、一般落葉樹は眠つてゐるといふ狀態であります。三四月頃發芽期になると榮養分を多量に要求して來るので其際あまり強い肥料をやると急に刺戟をあたへますから間接肥料を施すのがよくこれが丁度三四月頃になつて適度に効果があるのです。其の肥料　施法は分量は油粕(一八)骨粉(二)石灰(一)といふ方法　施すのでありますが、こゝが盆栽でしたら肥料は此の分量で二尺鉢に二合位の程度に施して頂きたいものです

政府の米買上に崇られた石城米

しり安に押され通し　農會で對策協議

石城郡大浦村農業倉庫では郡農會の後援の下に第二回

堤の内火防組

新年宴

來賓の演説

平町堤の内火防組の新年會は十五日午後四時より同區役警所に於て開會　組長深谷卯三郎氏、顧問大塚武雄氏、副組長大塚吉藏、梅本梅吉、副組長大塚吉藏外組員十四名出席深谷組長の開辭、來賓高橋龜松、青年分團長鈴木政吉、山本勝次郎諸氏の祝辭演説あり宴に移り盛會裡に六時散會したが前組長梅本梅吉氏に記念の總桐の小箪笥一竿を贈呈した

有給、名譽の兩論で植田町長選衡難

助役の任期も目前に當分は決定不可

石城郡植田町長佐川龜太郎氏辭任に伴ふ町長後任問題は政爭劇甚なる同町に於て町議十二名中政民六對の現狀にある爲め容易に決する模樣も見えない、過般の協議會に於て古川、大平、渡邊、豐田の四氏を特別委員として熟議をこらせしも別に名案てもなく、政爭緩和の一手段として一部には有給町長說を爲せし者あるも一蹴され、兩派未だ確たる候補者なく策士の横行に任かしてゐる、然も町議改選は六月三日に行はれる事として其後に延期する公算明な策なりとする說あるも現助役の任期は五月二十七日にあるため、町長選擧を町議改選後とすれば職務管掌を受け自治体の面目を傷ける事として進退兩難に陷つてゐる、猶再度の協議會は今月中開催の豫定である

錦村賊の行衛

石城郡錦村字志賀農達藤太七方に去る十三日夜十一時ころ賊忍び入り白米二俵を窃取逃走したので訴へ出でにより植田署で犯人發探中

弓道聯合會

第二回競技會

石城弓道聯合會第二回競技會は十三日綴驛前射場において開催前回の優勝組たる香風會より優勝旗を返還し直に競射に移り各射手秘術を妙技をつくして午後三時終了したが勿來町香風會第一位を占め再び優勝旗を獲得した成績次ぎの如し

(優勝射士)渡邊紫香、青天四衆香、北郷和香、赤津雪香(個人競技)一等小野唯次郎、二等渡邊紫香、三等木村末太郎、四等赤津雪香、五等秋山芳久

植田校懇話會

生徒の成績品展

石城郡植田小學校父兄懇話會は十七、八日兩日開催授業狀態を視察せしむると共に上級學校入學志望者並に卒業後實業に從事する生徒等の向後の方法意見處置等につき學校側として極力父兄及生徒に不安なからしむべく出來得べき範圍の希望意見を容るゝべく努力する筈である尚兩日は生徒の成績品展覽會を催すと

慕末狂恋乱

(135)　渡邊默禪作　宮野歌春畝

講談

「だつて前さん、あの女

「とにかく顔を洗つてからだ」

長吉わ大またに陰氣でうな顔で風呂場に洗面器を取りに入つた

「あつ、阿母だ」長吉が何時迄も洗面器を持つて出て來ないのでたたつわねばさけた身体を半分風呂場につこんだ。そして其所にたつ。わばあさんがかゝねてばんやりと表をながめてゐた長吉の姿を見て驚いて叫んだ。

「ばあさあだ、何だか知らねえが此所んとこでのめつてゐやがつた」

長吉わ力なくばあさんを

だいて起上つた。たたつま無言の儘それに手を貸してばあさんを家の中に入れた

「ばあさんが何しただ」

長次がのんきそうにふとんから寢間着の儘出て來た

「おやつばあさん、れ父つさん、此りやあ一体どうしたんだ、とつざあ、一体」

長次わ引吊つた目に深い哀愁を見せて父を見た。

おたつは長吉ノ目とわ只大粒の涙が遠い昔來迄も見通す樣な一切を物語つてゐた

「どうゆう譯か知らねねが死んだゞ、死んでゐたゞあ風呂桶の陰にな、ねびの樣に小さな聲でばあさんの謎に死に燃ゆる樣な憤怒をも場迄顯けた。

私わ村人の心に强烈なダイナマイトが口火を待つてゐるのを知つてゐる

一九二九、一、四

「ぴんとなつて」

「父つざあ、俺が知つてるだ、知つてるだ、皆々、ばあさん、俺あ皆知つてるぞ

長次の目にばあさんが納戸の影から見つめてゐた憤怒を更に燃焼してゐるのを長吉わ見た。

其の日二つの奇異な行列が長吉の家から出た。村人わ大きな聲で萬才を叫び更に小さな聲でばあさんの謎

「お！大した雪でねねか」

長吉わ雪につけこまれた冷たい風を受けて戸を開けるとわざと元氣な聲を出した

兵隊と

お絹ばあさん　(五)

四倉　田岡宏光

朝が一杯に新らしい空氣をはらんで、眞白な雪の世界にぱんやりと明けた

「さあ急しいぞ」嫁のたつわ何故とも知らぬ淋しさにたそわれて、思わず大きな聲を出した。

親類の女達もぴつくりして飛起きた。

「お！大した雪でねねか」

長吉わ雪につけこまれた冷たい風を受けて戸を開けるとわざと元氣な聲を出した

多量に要求して來るので其際あまり強い肥料をやると急に刺戟をあたへますから間接肥料を施すのがよくこれが丁度三四月頃になつて適度に効果があるのです。其の肥料　施法は分量は油粕(一八)骨粉(二)石灰(一)といふ方法　施すのでありますが、こゝが盆栽でしたら肥料は此の分量で二尺鉢に二合位の程度に施して頂きたいものです

新年宴

來賓の演説

平町堤の内火防組の新年會は十五日午後四時より同區役警所に於て開會　組長深谷卯三郎氏、顧問大塚武雄氏、副組長大塚吉藏、梅本梅吉、副組長大塚吉藏外組員十四名出席深谷組長の開辭、來賓高橋龜松、青年分團長鈴木政吉、山本勝次郎諸氏の祝辭演説あり宴に移り盛會裡に六時散會したが前組長梅本梅吉氏に記念の總桐の小箪笥一竿を贈呈した

有給、名譽の兩論で植田町長選衡難

助役の任期も目前に當分は決定不可

石城郡植田町長佐川龜太郎氏辭任に伴ふ町長後任問題は政爭劇甚なる同町に於て町議十二名中政民六對の現狀にある爲め容易に決する模樣も見えない、過般の協議會に於て古川、大平、渡邊、豐田の四氏を特別委員として熟議をこらせしも別に名案てもなく、政爭緩和の一手段として一部には有給町長說を爲せし者あるも一蹴され、兩派未だ確たる候補者なく策士の横行に任かしてゐる、然も町議改選は六月三日に行はれる事として其後に延期する公算明な策なりとする說あるも現助役の任期は五月二十七日にあるため、町長選擧を町議改選後とすれば職務管掌を受け自治体の面目を傷ける事として進退兩難に陷つてゐる、猶再度の協議會は今月中開催の豫定である

錦村賊の行衛

石城郡錦村字志賀農達藤太七方に去る十三日夜十一時ころ賊忍び入り白米二俵を窃取逃走したので訴へ出でにより植田署で犯人發探中

弓道聯合會

第二回競技會

石城弓道聯合會第二回競技會は十三日綴驛前射場において開催前回の優勝組たる香風會より優勝旗を返還し直に競射に移り各射手秘術を妙技をつくして午後三時終了したが勿來町香風會第一位を占め再び優勝旗を獲得した成績次ぎの如し

(優勝射士)渡邊紫香、青天四衆香、北郷和香、赤津雪香(個人競技)一等小野唯次郎、二等渡邊紫香、三等木村末太郎、四等赤津雪香、五等秋山芳久

植田校懇話會

生徒の成績品展

石城郡植田小學校父兄懇話會は十七、八日兩日開催授業狀態を視察せしむると共に上級學校入學志望者並に卒業後實業に從事する生徒等の向後の方法意見處置等につき學校側として極力父兄及生徒に不安なからしむべく出來得べき範圍の希望意見を容るゝべく努力する筈である尚兩日は生徒の成績品展覽會を催すと

「萬事お前さんにお任せするから宜しくやつて下さいな、私しやそのつもりでたやねえか、こんな御馳走を食ふのせいか俺は何だか心地が悪いからさつきから煙も取らずによ、飲みてゐ酒も我慢をして杯も睨めつくらしてゐるくれねだ、何だえ千兩の目くされ金、元來金のあることを鼻にかけてゐたのが癪にさはらぬ武士の潔白な魂が汚れた金で買えるかね、コウ大將、濟まねねが

位、どうもならうぢやない箱一つを突き出された近藤か、こつちの手で巧く一件勇は梅が不興らしい顔をしの書類さへ拵らへて置きやつてゐるので何か思慮があるあ」

「書類とは書き置か、遺言狀か、ウンそれはいくらも細工が出來るが成るべくならばた雪の方を別にしてあざやかな手際を見せたいものだ」

「萬事お前さんにお任せするから宜しくやつて下さいな、私しやそのつもりでたやねえか、こんな御馳走を食ふのせいか俺は何だか心地が悪いからさつきから煙も取らずによ、飲みてゐ酒も我慢をして杯も睨めつくらしてゐるくれねだ、何だえ千兩の目くされ金、元來金のあることを鼻にかけてゐたのが癪にさはらぬ武士の潔白な魂が汚れた金で買えるかね、コウ大將、濟まねねが

「梶原、何とする」

とにこやかに氣を引いた

「俺はいやだ」

と梅は言下に叫んだ

「役目の上で泥坊を叩き切つたんならた禮もへちまもあつたものではなからうぢやねえか、こんな御馳走を食ふのせいか俺は何だか心地が悪いからさつきから煙も取らずによ、飲みてゐ酒も我慢をして杯も睨めつくらしてゐるくれねだ、何だえ千兩の目くされ金、元來金のあることを鼻にかけてゐたのが癪にさはらぬ武士の潔白な魂が汚れた金で買えるかね、コウ大將、濟まねねが

「たまんや、コレにまんやむにや〳〵」ともつれた舌ね

「御辭退遊ばすからにはもやると私等を乞食扱ひにしやる不足と思召して失禮なるな、それが氣に喰はねば奴だと御立腹遊ばすのではえ」

「御座いますまいか左樣なれば自ら順に行べし▲三碧　聞かぬ振りで

「番頭どん、勘定はこれで見守つた、勇は笑つて

「いかにもその通り御主人御厚意の程はかたじけないが、今開かるゝ通りの理由ぢやゆゑに御辭退申す」

善右衛門は千兩箱を突き戻されて頗る意外に感じたその心を讀む樣に三人の顔を見較べ

「御辭退遊ばすからにはもやると私等を乞食扱ひにしやる不足と思召して失禮なるな、それが氣に喰はねば奴だと御立腹遊ばすのではえ」

「御座いますまいか左樣なれば自ら順に行べし▲三碧　聞かぬ振りで

「番頭どん、勘定はこれで見守つた、勇は笑つて

「いかにもその通り御主人御厚意の程はかたじけないが、今開かるゝ通りの理由ぢやゆゑに御辭退申す」

善右衛門は千兩箱を突き戻されて頗る意外に感じたその心を讀む樣に三人の顔を見較べ

「御辭退遊ばすからにはもやると私等を乞食扱ひにしやる不足と思召して失禮なるな、それが氣に喰はねば奴だと御立腹遊ばすのではえ」

「冗談言つちやいけねねやな、そんな慾の皮の突破つた恥知らずの野郎と思はれ

「冗談言つちやいけねねやな、そんな慾の皮の突破つた恥知らずの野郎と思はれ

「へイ〳〵有難御座います私も一生懸命で御座いますからどうぞ御心配なく、へイ〳〵それでは是で帳面を

「へイ〳〵有難御座います私も一生懸命で御座いますからどうぞ御心配なく、へイ〳〵それでは是で帳面を占めます」

と富松はわざ〳〵どそろばんをパチリ〳〵話しにもれたことが一つあるそれは太阪の金貸し木村逸齊との關係である、そも木村は何者？又一萬兩の問着はどうして處分されたか。

× × ×

京配の鴻池別邸で賊を追ひ討ちにしたお禮にと千兩

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器　八〇、〇〇〇
撮影器　六五、〇〇〇
フヒルム　一本　二、〇〇〇　二、五〇
生フヒルム　一本　一、〇〇〇
市内はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目
パテーベビー社代理店　西村屋藥舗
長電話三番

移轉擴張記念に
特別大勉强
平町二丁目百七銀行隣り
福田屋ふとん店
鵜沼彦茂

移轉披露
顧客樣各位の御引立により業務擴張の爲め從來四丁目角の店舗は狹隘を感じ今回左記に移轉大々的に擴張し皆樣に酬ゆる事となりました
移轉擴張記念に
特別大勉强
平町二丁目百七銀行隣り
福田屋ふとん店
鵜沼彦茂

營業種目
内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負　其他
(百)佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

外科一般(入院隨意)
内臟外科專門
花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり或げば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町鍛冶町
電話平長五〇七番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋(久)釜屋商店
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
諸橋久太郎
確實敏捷は(久)の生命なり

改正　片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時五十分
八時	九時二十分
九時	十時三十分
十時	十一時
十一時	二時
十二時	三時
一時	四時
二時五十分	五時四十分
三時	六時四十分
四時	七時五十分
五時二十分	八時
六時三十分	九時

平のりば　四丁目和泉屋前
新川町車庫
江名のりば　沖見屋
電話十四番
松屋

鈴木片濱自動車部
電話二一七
車庫呼出電話一四二

若松、鷺の一騎議
民政黨と絶緣
野崎氏に對する反感
石城民政黨狼狽

石城郡選出民政黨所屬縣會議員若松美三、鷺清昇の兩氏は今回縣議山田六郎氏等の主唱に共鳴し民政黨縣議十氏より成る憲政更新會に入り民政黨に向つて堂々反旗を飜ひし近く脫黨の手筈であるが寝耳に水の石城民政黨倶樂部では此の飛報に接し狼狽甚だしく急據善後策に腐心してゐる模樣である、而してこの回憲政會更新會の現はれは、縣民の利福氏の鮮明した態度は來るべき縣政の發達に立脚せず常に黨利黨略によつてのみ縣政を料理せんとする幹部の横暴にあきらず硬骨の猛者連が糾合して遂ひに此の快挙を見たのであるが翻つて若松、鷺兩氏の個人的異意を解陪すれば兩氏は過般縣會選擧當時より擧毎に横暴を極め石城民政黨を吾もの顔に振舞ふ縣議野崎滿藏氏一派に快からざる折を見て絶縁すべく虎視眈々たる折柄今回縣政を中心とせる更新會の誕生を唯一の大義名文とし遂ひに之れに參加したるものの如く今回右兩氏の鮮明した態度は來るべき町村會議員選擧を前に石城民政黨に一大渦を捲き起したるので見るべく成り行きは極めて重大視される

平署飛報を出し
火災の非常警戒
昨夜來の烈風に脅ひ
火の元を用心

平町地方は火災季節に入つてから幸に各町村消防組を始め火防團青年團等の努力に依つて僅に二、三の小火災があつたのみで各方面とも非常に喜こんでゐるが昨夜來から當地方一帶に亘つて猛烈の烈風襲來してゐるので萬一此の烈風中に出火を見るが如き事があつては平署は悲惨なる事が現出するやも計り難ずと管内全町村に割し嚴重なる注意を發したが殊に平町は新春早々平町目抜の才地小路から出火を見たが無風狀態であつた爲め僅に一棟二戸を全燒した程度で被害は止まり得たが此の烈風中に萬一出火すれば假令消火栓の威力消防組の努力等があつても全町灰燼に歸するが如き事があつては平署は悲惨なる事が現出するやも計り難ずと管内全町村に割し嚴重なる警備員を增員して火災防止に努めの更らに全町各區の火防團では同樣警備中であるが平署では「慎重の上にも慎重に火災の危を見るやうな事のない樣に一般にも充分に留意して火災の豫防に努めて欲しい」云々

石城思想視察記 (六)
狹山生　投

翌日は湯本から輕便の通り均衡のとれない配合だつて居る磐城炭礦の梅ケ平小野田の二坑へ行く事にする、途中白水の阿彌陀堂を見る。藤原秀衡の妹德尼御前の建立で平泉　金色堂を模したものとのことであるが、いつもながら日本民族藝術的天分と創造力とには感かされる。これ程の立派なそして有名な古建築も土地のものには餘り尊ばれてゐないかに見えるのは遺憾である。周圍は殊に殺風景な炭礦地であることも餘りは更に老境に入つてゐる。

小野田坑は自分が大學時代牛ケ年を暮らした所だ。老境に入つただけあつて見渡す坑山町の建物も一體に古びて居る。新築のものが除り見ねない自分の居つた飯場に行つて見たが、こゝの主人も代替りで知つた顔ではない。自分の親分になつてくれた渡邊老も今は茲に居ない。現場監督の人々も勿論居ない。尋ねべき人が居ないので、竪坑だけでも行つて見た、こゝだけは自分に取つて最も懷かしい思ひ出多い是非訪ねなければならない所だ。自分が詩人なら時間も夕方で多くの坑夫達が出坑したあとだつた。誰りの程度にあるらしく見えるが詩人でないことが殘念だ。

小野田竪坑には大正四年の夏から冬にかけて居つたのだが、自分のこの炭礦地とは古くから來て働いた最後だつた。自分はこゝでは優良坑夫だつたつもりだ。坑夫の親分から娘婿に望まれたこともあつたが、こゝの娘に望まれたこともあつたが、こゝの娘に望まれたこともあつたが、こゝの娘